

害虫「セグロウリミバエ」について

セグロウリミバエは、主にうり科、なす科植物の果実に甚大な被害を与える重要害虫です。ミカンコミバエと同様に、梅雨前線や台風等の強風により、東アジア等から国内に飛来すると考えられています。

成虫の体長は6.7～9.0mmであり、にがうり、かぼちゃ、すいか、きゅうり、赤うり、とうがんなどのうり科植物やトマト、ピーマン、とうがらしなどのなす科植物、パッションフルーツ、パパイヤ、グアバ(ばんじろう)、ピタヤ(ドラゴンフルーツ)など、いろいろな種類の果実を加害し、果実を腐らせます。

そのため、セグロウリミバエが発見された場合は、寄主果実の除去や薬剤散布、栽培残渣の早期片付けなどのまん延防止対策にご協力をお願いします。

ご不明な点などがあれば、各町農政担当課や大島支庁徳之島事務所農業普及課へご連絡ください。



セグロウリミバエ成虫
(植物防疫所HPより引用)

ピタヤの産地化に向けて活動展開中

徳之島では、気象や土壌条件に適する美味しいピタヤ(ドラゴンフルーツ)の系統を選抜し、着果性に優れる赤肉種の生産拡大に取り組み、商品名「徳之島宝赤(とくのしまほうせき)」で販売しています。

国内で販売されているピタヤのほとんどは、熟する前に収穫された輸入果実ですが、国内産ピタヤは熟した後に収穫されており、輸入果実に比べて甘みが強いことから、国内産ピタヤに対する評価が高まっており、流通量が増えています。

しかし、新規品目であるピタヤは整枝・せん定や施肥、病虫害対策など栽培方法が確立されていないため、栽培講習会や施肥に係る技術実証、他産地事例調査を行い、品質向上及び生産安定につながる栽培方法を検討しています。徳之島では栽培者が増えており、今年度は4月に新規栽培者向けの栽培講習会を、7月には沖縄県にて他産地事例調査を実施し、ピタヤの産地化に向けた活動を展開しています。

2年前に新規に苗を植えたほ場では、今年から本格的な出荷が始まっており、ピタヤの産地化に期待が高まります。



新規栽培者向けの栽培講習会



沖縄県での他産地事例調査